朝日新聞（夕刊）

2017年（平成29年）12月11日（月）　3版　4

へえな会社

疑似家族つくり旅行や食事

万協製薬（医薬・化粧品製造）

仕事に不安を感じた時、会社に親身になってくれる、「家族」のような人たちがいてくれたら。ただ、同じ職場や直属の上司だと、ちょっと胸の内を明かしづらい、かも……。

だったら、違う部署で、社歴もバラバラの社員同士が家族をつくればいいのでは？

三重県多気町で主にスキンケア製品の受託製造をしている「万協製薬」は、そんな発想から小グループでコミュニケーションをとれる疑似家族「プチコミファミリー制度」を始めた。

長男、長女、次男、次女……。普段は仕事であまり接点がない8、9人が、1年間限定の家族になる。名札にも「2班三女」などと明記。

年1回の「家族」旅行は、海外なら1人上限10万円、国内なら5万円、年2回の食事会は1人3千円を会社が補助する。

旅行は1週間まで休暇OK。行き先や日程を家族みんなで、ああだこうだと計画。育児や介護中の「家族」がいれば、「家を長く空けられないから、短期集中、国内でプチぜいたくしよう！」なんてことになる。

きっかけは2003年。業績は好調で多忙になり、社員がどんどん増える一方で、辞めていく人も5人に1人に上った。社長の松浦信男さん(55)は、相談できて面倒も見られる家族的な仲間が必要だと考えた。

「家族」のつきあいで、互いの人柄が分かってくる。コミュニケーションだけでなく、旅先や店を決めて行動することが、リーダーシップのトレーニングにもなる。03年に24%だった離職率は今、5%を切っている。

社員を大切にする。松浦さんの大きな転機は、1995年の阪神大震災だった。神戸にあった本社工場は全壊。翌年、三重に拠点を移し、夫婦2人で一から出直した。震災まで毎月つけていた売り上げの棒グラフを、倒壊したがれきの中で見つけた時、「売り上げだけを追求するのはバカらしい。一日をどう充実させるかをメインテーマにしようと思った」という。

だから、力を入れるのは「明日も行きたい会社にする」こと。社員の副業も歓迎する。ファミリー制度も、「社員の自発的な考えや行動を発揮しやすくするため」と話す。（中島秀憲）

1960年、神戸市で創業。従業員約170人。17年3月期の売上高は32億4900万円。松浦社長が集めた3万体超のフィギュアの博物館を本社に併設。

よしたにのへえぇ

社員のつぶやき

経理課

廣川 雅子さん(36)

私はプチコミ17班の「三女」です。先日は男性5人、女性3人のファミリーで金沢・能登を旅行しました。途中、車が脱輪するトラブルなどもありましたが、互いの性格がよく分かり、良い思い出に。会社で頼み事もしやすくなり、特別な存在です。